

ともに生きる

No.12



ご挨拶

後援会長

梶 純子

先日までの呵責のない暑さからどことなく秋の気配が加わってまいりましたが、後援会会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。平素より後援会活動にご支援ご協力をいただき誠にありがとうございます。

このたび、わたくしが後援会長に選任されましたことをご報告申し上げます。わたくしのような若輩者には身にあまる大任であります。教職員・後援会の皆様のお力をお借りし微力ではございますが、精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

さて、2006年は兵庫県で第61回国民体育大会「のじぎく兵庫国体」が9月30日に、第6回全国障害者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」が、10月14日に開幕されます。「国体」は全国より約16,000人「兵庫大会」では、約7,000人のボランティアの人々が選手とともに活躍すると聞いております。そして「のじぎく兵庫大会」には、わたくしの息子も在籍しております社会福祉学科2年生を中心に近畿福祉大学から約250名もの学生たちが「同行支援活動」に参加することになっています。障害者スポーツへの関心を深め、選手とともに感動を分かち合い、大いに活躍されることを期待しております。またこれを機に、同じ目標を持った者同士が意識を高め合いながらいろいろな事に挑戦してほしいものです。

少子化対策、高齢社会対策がさけばれる昨今、福祉大学での専門知識や技術、そして人としての優しさを持った若者が必要なことはいうまでもないでしょう。学科により専門とする事は違うでしょうが、それぞれの学生たちが専門分野で力を発揮し、社会に出て活躍してくれる事を心より願っております。

最後になりましたが、近畿福祉大学の更なる発展を願いご挨拶とさせていただきます。



後援会の皆様へ

『7年目の夏を迎えて』

近畿福祉大学

学長 大 羽 薫

8月も中旬ですのに今夏は猛暑が続きます。皆様お変わりございませんか。近畿福祉大学は開学7年目に入っていますので、今夏は7回目の夏ということになります。学生諸君は夏休みですが、教職員は、学生の実習先へ指導とあいさつのため巡回したり、就職先の開拓のために遠くまで出張したり、各地の高校を訪問して、進路指導の先生にお会いしたり、大変御苦労をかけております。昨日も、今春着任の教授が、両手に手土産を下げて、出発されるのに出会いました。この先生はパリや北京の日本国大使館の医務官兼参事官という外交官の地位を捨てて、本学に来て下さった方ですが、本当に有難いことと感謝しています。

すでに何回かのオープンキャンパスも致しました。全国的に志願者が減少している昨今、近畿福祉大学は、教職員と学生の有志諸君の奉仕的活動のおかげで、毎回、予想以上の訪問者を迎え、喜んでおります。

春に行われた4大学スポーツ大会の「姫友戦」も連続3回の総合優勝を果たしまして、当日私はひそかに誇らしい気分で、4大学の学長先生と歓談致しました。

今年は、大学の授業におけるおしゃべりや、出席をごまかすことなどの学生の非常識な振舞いを克服して、大学らしい立派な成果を上げるためにはどうしたらよいか、ということなどを副学長以下、学科長他の先生方に検討していただいております。入学宣誓式で、すでに、教室では真剣に学習に取り組むことも含めて、学生諸君に宣誓をしてもらっているのですが、今年は7回目の年度で、古来、人類は野球のラッキーセブンをはじめ、7という数をマジカル・ナンバーセブンと言って意義深いものと信じていますので、色々の面できっとよい成果が現われるだろうと思います。

ところで、少しさかのぼりますが7月の初め、思いがけなく、一年生の方から、次のような御手紙をいただきました。

「・・・夏の暑さにめまいを感じながらも元気に過しております。・・・入学後、はや3ヶ月がたちました。学校の生活にも慣れ、同じ志を持った人達と共に毎日楽しく過ごしております。・・・勉強していくうちに更に福祉の重要性がわかって参りました。・・・私達を待ちわびている方々の為にも、これから勉学により一層力を入れ頑張りたいと考えております。・・・」

学生の素直な意気ごみを知らせてもらって、私は、本当に幸せに思いました、わりと長文の返事を送りました。

「・・・入学後のオリエンテーションの講話でも申しましたが、若い人は、自分の健康のこと、お金のこと、勉強のことをしっかり管理して、毎日を意義ある歩みにしてほしいと願っています。・・・「学長と話す会」はまだ実現していませんが、そのうちそのような機会に恵まれるといいですね。・・・お友達の皆さんにもよろしくお伝え下さい。・・・」

保護者の皆様は、お笑いでどうが、開学7年目の夏にあって、私の心境の一端でございます。

日頃の御支援を感謝し、以上ご挨拶まで申し上げます。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

(平成18年8月24日)

平成18年度後援会役員

役職	保護者氏名	学科名	役職	保護者氏名	学科名	役職	保護者氏名	学科名
会長	梶 純子	社会福祉学科	委員	山田 耕一	社会福祉学科	委員	背尾久美子	福祉産業学科
副会長	幸福 功	福祉心理学科	委員	山田健一郎	社会福祉学科	委員	方山いつ子	福祉心理学科
監査	有本 順子	福祉産業学科	委員	植田 健治	社会福祉学科	委員	難波 勝代	福祉心理学科
監査	鹿塩 昇	介護福祉学科	委員	山田 俊章	社会福祉学科	委員	松田 耕二	社会福祉学科
委員	奥藤 昌己	介護福祉学科	委員	渡辺 敏幸	社会福祉学科	委員	山田由委子	社会福祉学科



社会福祉士 国家試験受験対策について

国家試験対策委員会

委員長 岩崎正武

第19回社会福祉士国家試験に向け、下記のとおり受験対策を実施します。学生諸君には、国家試験対策はもちろん就職活動、卒業論文にも毎日頑張ってくれていることと期待しております。今後とも国家試験合格に向けて全教職員がサポートをして参りますので、ご家庭におかれましても、何卒ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

項目	内容	日程・時期
授業	『社会福祉学特別演習』:過去問解説とまとめ…専門教員による過去問の解説とまとめ	10/2~12/18
講座	夏期講座:LEC専門科目…DVD講座+専門教員によるフォローアップ講座	8/8~9/30
	アウトプット講座:LEC問題演習…DVD講座+予想問題演習	11/28~12/19
模試	第1回・2回・3回・4回全国模試…本番さながらの全国模試で勉強の成果をチェック	10/21・11/25 12/23・1/6
受験手続き	国試受験手続き説明会…願書を配布し、記入方法と手続き方法を説明	9/22
	(近畿福祉大学へ)願書の提出…願書は大学で取りまとめ一括で試験センターに発送	10/2
その他	指定(推薦)図書・問題集の特価販売… 補助教材として最も有効な参考書、問題集を指定(推薦)し、半額以下で販売	9/22・12/23
	LEC共通科目DVDの学内貸し出し…空いている時間に自習室で視聴	平日9時~18時 土曜9時~15時

第19回社会福祉士国家試験について

試験日:平成19年1月28日(日)

試験地:近畿福祉大学が今回より試験場となります。



精神保健福祉士援助実習について

福祉心理学科長

和泉光保

福祉心理学科が2004年度に開設され、1期生はすでに3年に在籍しています。創設当初、最も懸念された問題点の一つは、国家試験受験資格取得に必要な実習施設の確保がありました。その確保のため兵庫県内は実習担当課が中心となり開拓を実施し、県外については学生の自己開拓として協力していただいた結果、実習希望者数に必要な実習施設(107施設)を確保することができました。この際、保護者の方々にも協力していただいたことをこの紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

精神保健福祉援助実習は、すでに学んだ精神保健福祉の専門知識、理論を実習という体験学習を通じて検証し、精神保健福祉を総体として学ぶとともに、精神保健福祉の各分野について学んだことを実習体験を通じて統合し、各種援助活動に必要な資質・能力・技術を修得することを目的として行われるものです。

現在3年生は実習を開始しています。実習は6回に分かれて行われ第1回と第2回はすでに終了し、第3回は8月21日~9月22日、第4回は9月25日~10月28日、第5回は11月6日~12月16日、第6回は2月5日~3月10日に行われます。

実習施設から見て好ましくない学生は「社会常識に欠ける人」「挨拶等のできない人」「学校で決められた実習をただこなせばよいと考え、実習意欲のない人」「専門知識に欠ける人」といわれています。本学ではそのような実習生にならないように「実習上の心得」として事前に教育を徹底していますが、社会常識とか挨拶の励行等は家庭での教育が大きな比重を占めていると思われますので、保護者の皆様においてもよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。なお、専門知識について、2年終了時点では精神医学、精神科リハビリテーション等についてはやや教育不足の面があるので、2期生(2005年度入学)からは、社会福祉援助技術実習を3年次に行い、精神保健福祉援助実習は4年次に行うように変更し十分な専門知識を付与し実習を行います。



「量より質」の キャリアアップを目指して

就職部長

小 西 博 喜

去る7月の新聞で「4年制私大定員割れ4割」という見出しが全国新聞に報道されました。それは今春の入試で入学者が定員より少なくなつて定員割れした私立4年制大学が222校に達し、定員割れ率が40.4%となったことが日本私立学校振興・共済事業団がまとめた調査で分かりました。このことは「大学全入時代」を2007年に控えるなか、18才人口の減少で受験生が減っているのに、大学や学部の数は新設ラッシュで増加、受け皿が大きくなっています。つまり、大学進学が年々容易になつていているのに、受験生が下位校を敬遠し、人気を集める都市部の大規模大学が地方の中規模以下の大学の受験生を吸収するため、定員割れの地方の大学を増やしている傾向が現状であるといえます。

大学は今、入り口（入試）と中身（入学後のカリキュラム）、そして出口（就職）の3つの改革にしおぎを削っています。かつてのように黒板をにらみながら黙々と授業をこなし、長い休暇を利用して自分の研究に没頭できるといった教授人生はもはや過去の古い話で終つたのでしょうか。人気のない大学なら、まず入学定員を満たすことが先決であり、仮に定員割れの懸念の有無にかかわらず質の高い学生の確保が大学の目指す課題であります。重要なことは、大学が多種多様であり、大学に求められているものもまた多種多様であるという点であります。大学の理念や目的、社会のどのニーズに応えることを目指しているのかによって大学の評価の仕方も異なつて当然であります。また、大学を取り巻く企業・施設や学生、地域環境など周囲が大学に何を求めているかによつても評価の仕方は異なるべきであります。

単に就職率が高いだけで評価されるならばどこかに押し込めばよい、しかし、本来、大学の目的はそうではない、学問の分野で自分が自己実現したい、新しい発見を模索していきたい、そう感じる、気付かせるためのヒントを与えていくのが本来の大学が目指すあり方ではないかと考えますが如何でしょうか。

本学の就職活動のなかで、就職意識については自分の将来と適性を見据えて「就職するということは何か」に向き合える学生諸君が徐々にではあるが増えてきている一方で、「就職」を現実としてとらえられない学生も増えてきているという二極化の現象が生じております。また、精神的、経済的な自立だけではなく、それぞれが課題を見つけて挑戦し、解決する能力まで求め始めているというのが一般企業・施設の姿勢であります。つまり、「量より質」の企業・施設の考え方と「質より量」の大学のミスマッチが深刻な社会的問題になりつつあります。したがって、採用についても内定が一つもとれない学生と内定がいくつもとれる学生の差が広がることも事実であり、就職意識の低い学生の増加につながつてゐるといえます。

本学学生の過去の全体の就職率は以下の通りです。

平成15年度第1期生 99.2%

平成16年度第2期生 98.7%

平成17年度第3期生 98.5%

平成18年度第4期生諸君の広範囲に及ぶ就職活動の挑戦が少しでも学生のキャリアアップにつながる展開を期待しながら学生との現状分析を継続したいと考えています。今後は、本学が目指す社会のニーズを的確に把握し、教育改革・改善をしていくことが、他大学との競争のなかで求められていく教育内容であります、教育的な最重要課題ではないかと考えます。



「のじぎく兵庫大会」 同行支援について

社会福祉学科長

安井秀作（リハビリテーション論担当）

のじぎく兵庫大会が、平成18年10月14日（土）～16日（月）に開催される。この大会は、「障害のある選手が競技を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、人々の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与する」ことを目的とした「障害者スポーツの祭典」である。このため、日頃から鍛えた技を存分に競うことができるよう、障害を持つ選手たちと行動を共にしながら、必要なサポートを行なう「同行支援」が重要であり、大会の成功は、これにかかっていると言っても過言ではない。

本学に対しても、事務局から、同行支援の役割を担う学生（約250名）を派遣して欲しいとの要請があった。同行支援は、学生にとっても学ぶことが多いことから、社会福祉学科2年生に、この役割を担ってもらうことが決定された。

同行支援に当たっては、障害の特性に応じた支援技術をはじめ、「手話」や「要約筆記」などの技術を学ぶことが求められる。このため、2年生・前期の履修科目である「リハビリテーション論」において「特別プログラム」が組み込まれ、「基礎編」では、障害特性に関する知識を、「応用・技術編」では、手話などの支援技術を修得した上で、大会において、事務局の定める同行支援の役割を果たすことによって、授業科目を履修したと見なして単位を与えることとした。

基礎編は、6月23日をもって終了し、30日からは、クラス単位で、手話通訳者による手話の基礎、地名の表現、競技用語、さらには、簡単な会話などに加えて、要約筆記などについても学習が深められた。聴覚障害者自身による講義は、学生にとっては初めての経験であったが、回を重ねるに従って技術レベルはあがり、最終段階では、ある程度の日常会話をこなせるまでになった。大会での「実践」を通じて、コミュニケーション能力を高め、自信を深めて欲しいと願うものである。

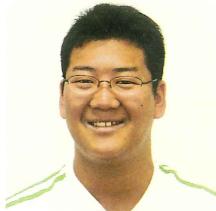


平成 17 年度後援会収支報告

(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

内 容		金 額	備 考	
収 入	前 年 度 繰 越 金	8,893,358		
	利 息	3,863		
	会 費	23,810,000		
	収 入 の 部 合 計	32,707,221		
支 出	教育事業への補 助	備 品 補 助 費 行 事 費 国 家 試 験 対 策 支 部 活 動 費 保 険 料 慶弔費 計	3,682,500 1,359,828 1,213,742 0 1,007,620 81,000 7,344,690	テント・マイクロバス等 クラス懇親会補助、車椅子ハンドボール支援金、ボランティアセンター補助
	事 務 運 営	消 耗 品 費 交 通 費 通 信 費 会 議 費 印 刷 費 手 数 料 計	48,375 40,000 438,660 95,476 527,950 1,680 1,152,144	印刷用紙等 役員会 郵券代等 茶菓代等 会報、ハガキ等
	学 生 課 外 活 動	学園祭補助費 活 動 補 助 費 計	2,000,000 1,500,000 3,500,000	サークル活動費等
	ア ル バ ム 代	7,785,000	卒業アルバム作成費	
	次 年 度 繰 越 金	12,925,387		
	支 出 の 部 合 計	32,707,221		

定期預金 (19,000,000)



平成 18 年度の学友会

学友会運営委員会

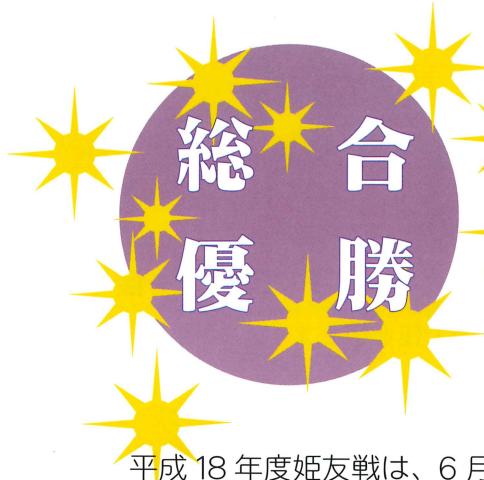
委員長 文 野 翔 太

今年度の学友会運営委員会は役員も大幅増え、例年にはないほどの活気があります。一人ひとりの役割分担にゆとりができたことで気を緩めることなく、一歩一歩を確実に進んで行くことを目標とし活動していくこうと思います。

昨年度までは人数の関係上、団体管理などの必要最低限度の活動をこなすだけでも精一杯でした。その結果、なかなか一般学生を対象とした行事等を開催することができませんでした。人数的な余裕ができた今こそ、学生団体だけでなく一般学生も含めた学生全体に対して私たち学友会運営委員会は『何ができるのか?』『どう還元できるのか?』ということをこれまで以上に考え活動を展開しなくてはなりません。

「この大学に来てよかったです」と思えるような新しい企画をひとつでも多く、学生皆さんに提供できればと考えています。また、後援会の皆様からも「このような企画を考えてみてはどうですか」等、ご意見がございましたら、ぜひご連絡いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、後援会の皆様には、日頃よりご指導ご協力賜り厚く御礼申し上げます。



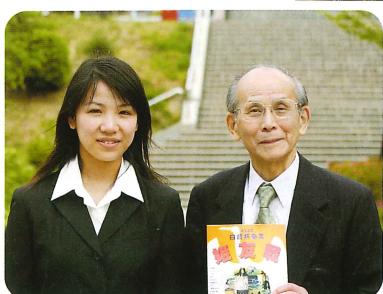
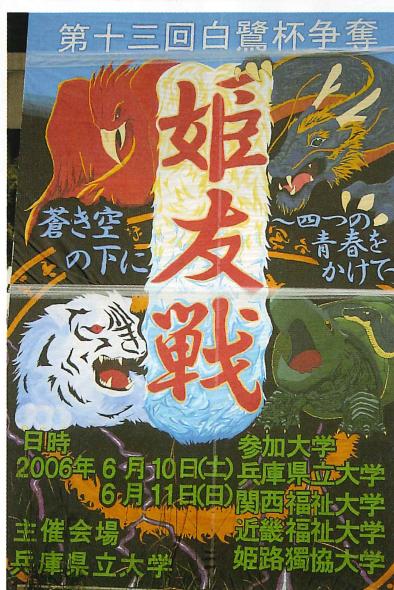
第13回

白鷺杯争奪姫友戦

近畿福祉大学

平成18年度姫友戦は、6月10日・11日兵庫県立大学等において熱戦が繰り広げられ、近畿福祉大学が**3年連続総合優勝**の栄冠を見事勝ち取りました。

優勝した団体は、弓道部、男子・女子剣道部、男子・女子硬式テニス部、軟式野球部、軟式テニス部、男子・女子バスケットボール部、女子バドミントン部、男子バレーボール部です。





第7回播彩祭

～NO IMPRESSION NO YOUTH !!～

学園祭実行委員会

委員長 浅田千佳

はじめまして、今年度委員長を務めさせていただいております、浅田千佳と申します。今年度の学園祭は10月28日(土)・29日(日)に行うこととなりました。

播彩祭は、地域の祭りとして認知していただく為にも、より一層地域に根付いた学園祭にしたいと思っております。まだまだ第7回と歴史は浅いので、様々な事に挑戦し、成長していきたいと思います。

さて、今年のサブタイトルであります、～NO IMPRESSION NO YOUTH !!～（感動なしでは、青春はない）は、『播彩祭で感動を感じてほしい!!』『播彩祭で仲間と協力をしあうことで何かを感じ取ってほしい!!』といった想いから付けさせていただきました。皆様にとっても2006年の思い出の1つとなるように、こころに残るような企画をしたいと、日々STAFF一同頑張っております。

最後となりましたが、後援会の皆様には温かいご支援・ご協力をいただきまして誠に有難うございます。STAFF一同皆様のご来場をこころよりお待ちしております。



(新入寮生歓迎会 2006. 4. 5)

平成18年度近畿福祉大学教育懇談会開催について

播彩祭（学園祭）初日の平成18年10月28日（土）近畿福祉大学教育懇談会が開催される予定です。 詳細につきましては大学からの案内をお待ちいただきますようお願いいたします。

お便りコーナー

事務局では会員の皆様からの『もっとこういうことが知りたい』などのご意見、お便りをお待ちしております。またインターネットや携帯電話をご利用のうえ右記E-mailアドレスに送信いただいても結構です。どうぞよろしくお願ひします。

発行日：2006年9月20日

発行：近畿福祉大学後援会

事務局 学生部

〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

TEL (0790) 22-2528

FAX (0790) 22-6941

E-mail:gakuseibu@sw.kinwu.ac.jp